

今、家族は どうなっているのか？

～ カウンセリングの経験から考える～

講師 信田 さよ子 先生（原宿カウンセリングセンター所長）

目まぐるしく時代が変動する中、家族という最も身近な社会集団のありようも大きく変化しているように感じさせられます。今日的な家族のありようについて、長年カウンセリングを通じて家族について考えてこられた信田さよ子先生にご講演いただきます。



原宿というにぎやかな街の片隅で開業心理相談機関を運営して23年が経った。精神科医療や公的機関を選ばないクライアントを対象とし、スタッフ10名が連携して家族全体にかかわる相談システムをとっている。また個人カウンセリングに加えてグループカウンセリングや心理教育的プログラムも実施し、依存症の自助グループや弁護士との連携も多い。1970年代からアルコール依存症をとおして家族の暴力にかかわってきたが、「力における非対称性」という視点から家族をとらえる必要を感じている。そのような立場から、現在の家族について考えていることを、DVや虐待、母娘問題などを具体例として述べてみたい。（入場無料、要事前申込）

講師プロフィール：1946年生まれ。お茶の水女子大学大学院修士課程修了。1995年、原宿カウンセリングセンターを設立。アルコール依存症、摂食障害、DV、子どもの虐待などに悩む本人や家族へのカウンセリングを提供している。主要著書『DVと虐待』（2002年）『母が重くてたまらない』（2008年）、『それでも、家族は続く』（2012年）『アディクション臨床入門』（2015年）、『母・娘・祖母が共存するために』（2018年）。

日時 2018年12月1日（土）13:00～15:00（受付 12:30～）

会場 目白大学10号館9階（東京都新宿区）

司会 堀川 聡司（目白大学心理カウンセリングセンター助教）



申込方法 当センターホームページの申込フォーム（11月28日（水）まで）

https://www.mejiro.ac.jp/counseling/news/2018/06/181201_cc/

- * ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせ下さい。
- * 個人情報は本学規程に基づき、厳重に管理致します。